

◆岡山大学法学部だより◆

※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 141 号(2018 年 1 月 15 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

=====
本年もどうぞよろしくお願いたします。

○卒業生からのメッセージ (第 51 回)

「私の海外生活とテニス」

皆さん、明けましておめでとうございます。

私は昭和三六年に法文学部法学科卒業の瀧正敏と申します。今年の十一月の誕生日で八十歳になります。会社現役時代最後の海外勤務地ロンドンから帰国し、平成十年に東京で定年退職を迎え、故郷岡山に戻り念願のテニス三昧の生活を始めて二十年になります。私の会社生活三八年の内、約十五年を海外四都市で過ごしました。

テニスは中学三年の十四歳から始め、朝日高・岡大ではテニス部に所属し、岡大三回生の主将時代には、中四国インカレのシングルス・中四国王座戦優勝、インカレ出場、中国五大学大会では団体戦・個人戦単複優勝の三冠王となる等テニスに熱中していました。

岡大卒業と同時に日本通運(株)東京本社に就職し、二年間の研修期間と国際貨物部門での実務を経て、希望していた国際旅行部門に移り、以後定年まで四回の海外勤務と東京を中心に静岡・名古屋の国内勤務等で、引っ越しは十五回経験しました。

海外生活の最初は研修生としてニューヨークでアイルランド系の家に下宿し、休日には近所の公園で現地の人達とテニスを楽しみました。

帰国後東京勤務を経て当時日本から近い新婚旅行先としてブームになったグアムに駐在し多くの観光客を迎え入れました。ワイフと五歳の長男・二歳の次男も一緒でした。長期滞在していたホテルに、これからは観光だけでなく現地滞在中に好きなスポーツが出来る施設が必要と支配人を説得してテニスコートを造ってもらいました。

三番目の海外勤務地サンフランシスコ本社に取締役総務部長で赴任し、海外では一番長く六年滞在しました。当時高校卒業・中学卒業の長男・次男も同行し、長男は現地の州立大学、次男も現地高校を卒業、この経験が二人の人生を変えたと言ってよく、現在長男はマレーシア・ペナン駐在からドイツ・デュッセルドルフに駐在しており、次男は帰国して青学を卒業し商社から転職して現在外資系企業で働いています。

サンフランシスコでは本社にテニス部を立ち上げ、ロスアンゼルスにも創り、年二回現地社員と一緒に親善試合をしていました。私の夢は大きな支店全部にテニス部を創ってハワイで大会をしたかったのですが帰国により叶いませんでした。

最後の海外勤務地はロンドンで、現地法人の社長で赴任し、ここでもテニス部を創りハイパークのコートで現地の社員と一緒にプレイしました。又日系企業の社長に呼び掛け、「ウィンブルドンクラブ」を結成して十七名のメンバーが毎月第四日曜日に私が所属している名門のテニスクラブに参集して親睦を深めました。

このように大学で熱中したテニスが国内は勿論海外での生活や仕事に大変役立ちました。

現在も「九十歳現役」を目標に健康なテニス三昧の生活を楽しんでいます。

瀧 正敏 (1961 年卒業・元日本通運株式会社勤務)